

光明学園と保護者をつなぐ

健康の橋



東京都立光明学園（肢・病併置校）
令和2年11月20日（金）発行
健康・安全・安心の架け橋通信⑦
校長 田村 康二郎

東京都では、今週の感染者増に対して、警戒レベルを引き上げました。「感染が拡大しつつある」という認識に基づいた対応策を講じていく必要が一層強まってきたところです。

感染予防対策として換気的重要性が挙げられていますが、単に換気するだけでは感染予防に有効な湿度維持が難しくなりますので、冬季に向けて例年以上に注意を払っています。

本校の現時点での加湿手段として、西棟では、全館加湿装置（写真①）と床置き加湿器（写真②）を稼働させています。一方、A棟は大型加湿器（写真③）を稼働させています。各棟に即した設備・機器活用して常時加湿しています。



しかし、コロナ禍においては、「換気（及び暖房）をしながらの湿度維持」が求められてい

①全館加湿装置 ②床置き加湿器 ③家庭用大型加湿器

ます。そこで、本格的な冬の到来前によりよい換気方法を見出すために数種の方法で検証実験を行いました。1週間、西棟1階2階・A棟2階の教室で換気10分後の湿度を記録したところ、現在の換気方法では西棟では湿度がやや低く（40%後半～50%前半）なってしまふことが分かりました。

一方、効果的であったのは下表の方式でした。

湿度・温度を保ちながら、効果的な換気をするために変更します。

この検証実験に基づき、下表のように西・A棟では特に湿度保持の対策を、ドミトリ（寄宿舍）では、冷え込む夜間の温度保持の対策（防犯ロックのかかる安全な範囲での僅かな窓開放）を来週11/24（火）から実施します。

	換気方法
西棟	窓：30分に1回10cm開放 廊下側扉：30分に1回全開放 ← New
A棟	窓：30分に1回全開放 廊下側扉：30分に1回全開放
ドミトリ （寄宿舍）	日中：窓：常時10cm開放 廊下側扉：常時全開放 夜間：窓：常時数cm開放 ← New 廊下側扉：常時全開放



【参考】 都立学校ガイドライン（令和2年9月14日付）

授業中における窓開けなどの換気は可能であれば常時、困難な場合はこまめに（30分に1回以上、数分間程度、窓を全開）2方向の窓を同時に開けて行うこと。

A棟・西棟全教室に温湿度計を設置しました。

上記の換気方法を実施しながら、こまめに温湿度計をチェックし、状況に応じて加湿器の風量や風向を調整できるよう、全教室に温湿度計を設置しました。確認を習慣化し、「換気をしながらの暖房・一定の湿度の保持」に努めます。

